

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立西成高等学校
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① 希望の進路実現率および定着率（第2学年末におこなう進路希望調査の実現率） ② 「生徒の成長実感率」
計画名	西成高校「暮らしと仕事をつなぐシチズンシップ育成」プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>新たに設定した西成高校ロードマップに沿って、「地域との協働の取組の創出」に注力する。特に、「若者を暮らしと仕事につなぐシチズンシップ研究」開発を通じてエンパワメントスクールとして成熟することをめざす</p> <p>.....</p> <p>2 キャリア教育でエンパワーする</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 挫折や失敗からリカバーするチカラを育成する。 ② アルバイトを導入とした動機付けから、2年次のインターンシップを通して、段階的・実践的な職業教育を実施する。 ③ 社会人基礎力の養成を行う。（1年次からの人間関係作りなどを含めた） <p>4 「地域まるごと」エンパワーする</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「産業社会と人間」「エンパワーTIME」「総合的な学習の時間＝チャレンジ」の発表会を実施する。 ② 地域防災の取組みを地元自治体とともに小中高の連携で行う。 <p>※ 「地域との協働による高等学校改革推進事業」（文部科学省）にエントリーし、「地域課題の解決」（子どもの貧困、福祉と教育の連携、活力ある西成区、地域防災など）をめざす「地域魅力型」事業（コミュニティスクールの地域学校協働本部のような取組み）を実施する。→平成31年度は地域協働推進校（アソシエイト）として取り組む。</p>
事業目標	<p>本計画は、わが校がめざす「三つの自立/生活的自立・社会的自立・職業的自立」のためには、地域の人から評価を受けたり、また自ら役立ったとの実感することにより自尊感情を高める必要がある。</p> <p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「当事者」として自らの生活を「意識化」し、地域課題を自らの問題として理解し実践するチカラの育成 ② 地域課題に直面し市民力を養う学習を活用し「生きる力」をデザインできる生徒の育成 ③ 西成の歴史・文化に親しみと誇りをもち、西成区や西成高校のことをポジティブに語れる生徒の育成 <p style="padding-left: 20px;">→エンパワ演習（1年次）、産業社会と人間（1年次）、総合的な学習の時間（のち総合的な探求の時間）や自由選択科目（エンパワタイム）2年次、総合的な学習の時間（のち総合的な探求の時間）カリキュラムマネジメントを通じて実現！</p> <p>【キャリア教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① インターンシップのための地域本部を作る ② 就労に不安のある生徒への相談支援専門員の配置 ③ 就労相談支援の場として校内JOBカフェ＝Job cafe にしなり すてっぷルームを週3回程度開催する。

	<p>※ 教育と福祉の連携は言うまでもなく、さらに労働への支援を学校システムに組み入れる。</p>
整備した設備・物品	<p>い 校内 JOB カフェ=Job cafe にしなり すてっぷルーム の開設 開設のために→電話、テーブル、椅子、タイル・カーペット、エアコン、無線 LAN アクセスポイント、書棚など</p> <p>い 校内 JOB カフェの運営委託費（2年め、3年めはランニングコストとして）</p>
取組みの主担・実施者	<p>主担者： カリキュラム開発→首席 校内 JOB カフェ運営→首席</p> <p>実施者： 教務学習課、進路指導課を中心にシステムを運用 → すべての教職員が学級担任として教科担任として実施</p>
本年度の取組内容	<p>【1】学習（内容のブラッシュアップ、地域との協働を企図する内容に変更）</p> <p>い エンパワメント演習（教科横断型、学校設定科目） 全員必履修<2単位> → ①地域防災入門 ②地域福祉基礎講座 ③健康基礎講座 ④異文化に生きる</p> <p>い 産業社会と人間（全員必履修） 3単位 → ①「にしなり」学習</p> <p>※ 社会的排除と格差の連鎖についてなど；部落差別、貧困問題、野宿者についてなど地域の課題の共有と対話の中から、解決策を探る →②「自己理解と働くということ」</p> <p>【2】キャリア育成</p> <p>い 西成高校インターンシップ連絡協議会を組織し、インターンシップの活性化、評価手法の研究を実施 ← 校内 JOB カフェの取組み</p>
成果の検証方法と評価指標	<p>い 希望の進路実現率 …………… 70%以上</p> <p>い 学校教育自己診断での成長実感の肯定感 …………… 75%以上</p> <p>い 地域人材を育成する地域と協働した評価指標として、地域実習（インターンシップ）における地元（大阪市）企業数 …………… 50社</p> <p>い 地元への定着率を測るものとして、就職斡旋者の就職率の向上…………… 70%</p>
自己評価	<p>い 希望の進路実現率 70%…………… (○)</p> <p>い 学校教育自己診断における「高校に入学して自分は成長したと実感している。」の肯定感：1年：82.4%、2年：79.6%、3年：87.5%、全体：83.4%…………… (◎)</p> <p>い 地域実習（インターンシップ）における地元（大阪市）企業数 28社 ※ A'ワーク創造館、中小企業同友会等の協力を得て、1月に校内でインターンシップ受け入れ説明会を実施し、継続・新規を含めて計 50社の受け入れ企業を確保した。 …………… (△→○)</p> <p>い 就職斡旋者の地元就職率：72%…………… (○)</p> <p>校内 JOB カフェではアルバイト支援として、1年間で 23 名がガイダンスを受けるために来室。内 11 名が継続で個別カウンセリングを希望して複数回来室。2名がアルバイトの面接に申し込み 1名が合格。別の 4 名が発達障がいのある人たちの支援施設での支援付きアルバイトにつながった。</p>
次年度に向けて	<p>【1】学習（内容のブラッシュアップ、地域との協働を企図する内容に変更）</p> <p>い 総合的な探求の時間（全員必履修 2 単位）教科横断 →① 地域実習（インターンシップ）→地域で働く、職種だけでなく業種も研究対象とする ② 反貧困学習（テーマ別人権学習）</p> <p>※ 西成区はすべての人の人権が守られる状態をめざして街づくりを進めている。この学習では私たちの生活そのものを見つめ直し、「意識化」する取組みをおこなう。</p>

い ボランティア入門（福祉/2単位/選択授業）など

→① 地域でのボランティア実習をおこなう。

※ 今年度はカリキュラムの改革には力が及ばなかった。この点、次年度は進歩させたい。

【2】キャリア育成

い 校内 JOB カフェによる相談支援、就労支援専門員による面談など、次年度は効果的な広報を行うことで、より多くの生徒を働く場につなげたい。